弥富北中学校学校便り　No. 7

至　誠

平成 29 年 6 月 20 日発行

当たり前のこと～朝礼校長講話より～

先週、土曜日に行われた海部地区相撲大会の結果をお知らせします。団体戦では、予選リーグでがんばった結果、決勝トーナメント進出をかけた決定戦に臨むことになりました。ここでも力一杯戦いましたが、惜しくも決勝トーナメント進出はなりませんでした。試合後、選手は涙が出るほど悔しいと言っていましたが、次の西尾張大会・県大会へとつなげるよう頑張ってほしいと思います。

また、少し前の事ですが、とても嬉しかったので、皆さんに伝えたいことがあります。それは、修学旅行の最後に、同行していただいた添乗員さんから、

「今回の修学旅行は、大変、仕事がやりやすく、楽しく仕事を行う事ができた修学旅行でした。」

と言っていただいたことです。とても嬉しかったので、ここで紹介させていただきます。

さて、先回の朝礼の時、皆さんに大きな夢をかなえる基本のＡＢＣの話をしました。その中のＡ「当たり前のこと」とは何か、考えてきてくれましたか。先生は、「当たり前のこと」は次の３つだと考えています。

「あいさつ」「人の話をしっかり聴く」「履き物をそろえる」この３つが大切だと考えています。

タレントで天気予報士の石原良純さんは、父である元東京都知事の石原慎太郎さんから、

「あいさつと時間を守ることができれば、社会でやっていける。」

と口をすっぱくして言われていたそうです。

日本を代表するパテシエ杉野英美さんは

「当たり前を積み重ねると、特別になる」

と言っています。毎日やっている当たり前のことを地道に続けることが大切です。

「あいさつ」といっても何でもよいわけではありません。質の高いあいさつをしてください。

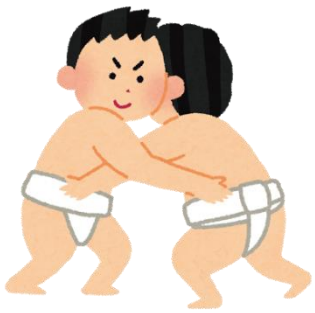
「人の話を目で聴く」と言います。ランチルームで聴く姿勢と同じように、話をする人の方に目を向けで聴くことが大切といわれますが、さらにレベルを高く「脳」を働かせて聴くことが大切です。

「履き物をそろえる」心の乱れは、履き物に表れます。心のバロメーターです。つまらない、当たり前のことが大切です。

勉強も運動も人生も、基礎基本が大事です。これから、夏の大会、学校祭に向け、当たり前のことをしっかりやっていきましょう。

あきらめなければ、反撃のチャンス～相撲部代表の話より～

土曜日に相撲大会に行ってきました。弥富北中にはいないような体の大きな選手が多く、初めから緊張しっぱなしでした。そして、いざ、土俵に立ち、相手と対峙したときは、恐怖に駆られてしまい体が萎縮してしまいました。そのため、自分の思うような取り組みができずに、あっけなく負けてしまいました。取り組み前から、気持ちの面で負けていたということが、とても悔しいです。ですが、反省する点だけでなく、学んだこともあります。体の小さい選手が大柄な選手に投げられそうなときに踏ん張っている光景を見て、「あきらめなければ反撃のチャンスはある」ということを学びました。西尾張大会や県大会では、気持ちでは絶体負けないようにし、勝ち残れるようにしていきたいです。多くの応援ありがとうございました。



～お知らせ（本年度・学校祭について）～

９月２０日（木）・２１日（金）に開催予定の本年度学校祭について、お知らせします。昨年度まで、学校祭初日に文化祭、２日目に体育祭を行っていましたが、本年度より順序を入れ替え、**初日に体育祭、２日目に文化祭**を行う予定をしています。（初日雨天等で体育祭ができない場合は、初日に文化祭を行う予定です。）ご承知下さい。